



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り 3月号

平成27年2月27日

横浜市立旭小学校

人間関係を高め深めるために

校長 伊藤 博夫

早春の候、学校の桜の木にも芽が出始めてきています。季節の移ろいを感じます。

さて、あっという間に3月になり、後期も残り少なくなりました。児童も残り少ない日々を充実させようと日々頑張っております。

このところ「卒業」という冠の付く活動が多くなり、お祝いする気持ちと共に寂しさを感じているのは私だけでしょうか。

クラブ活動発表会や学年音楽発表会でも感じたことですが、旭小学校の児童が司会をしたり発表したりするとき、ほとんどメモ無しで自分の話を堂々とできるのです。教師も日々の授業の中や行事等で、児童の発表の場を大切にして継続して指導してきております。

私自身も最たる者ですが、日本人は自己表現力に乏しいと昔からよく言われています。「自己表現力」を育てるといっても、人前でうまくしゃべるような訓練をすることとは違います。私たち人間の世界では自分一人では何もやっていくことはできません。他の人と協力して共に活動を進めていかなければなりません。「自己表現力」とは、他人とうまくやっていくために最低限必要なことだと思います。ところが、会社などを経営している人に言わせると、新入社員は日常の軽い話題には参加できるが、いざ仕事上でのディスカッションをするという場面ではあまり自己表現が上手ではないというのです。

欧米では、小学生の頃からクラスの大勢の前でスピーチをする「SHOW&TELL」といったレッスンがあるそうですが、何もそこまでしなくても日常の場で意識して指導していくことが大切だと思います。本校ではあらゆる教科等の場で発表の機会を重視し、指導をしていきたいと考えています。

自己表現の原則は、「挨拶ができること」「話ができること」「話が聞けること」の三つが揃うことではないかと思うのです。「挨拶ができること」については、本校の児童は概ねできているように感じています。いまさら言うまでもありませんが、挨拶は心の窓です。「いつでも、どこでも、誰とでも」の原則で、まず、自分から先に挨拶ができることが大切ではないでしょうか。

「話ができること」については、自分の言葉で相手に分かりやすく納得させる話ができるようになってほしいものです。「話が聞けること」については、自分の言い分だけを主張するのではなく、自分の考えを相手に受け入れてもらうための努力をすることが大事だと思うのです。

この三つをセットにして自己表現力を育てることは、とりもなおさずコミュニケーションを通して人間関係を高め、深めるということにつながっていくのだと考えています。その意味でも、今年度始めた国語科の研究を来年度も継続して進め、本校の児童の人間関係力を高めていきたいと思っています。

卒業証書授与式も21日に挙行されます。巣立ち行く6年生とのお別れ会や感謝の会も催されます。小学校での思い出を糧に、中学校でも大いに活躍してほしいものです。6年生の皆さん、在校生の指導をありがとうございました。

保護者の皆様、地域の皆様、今年度も3月を残すのみとなりましたが、一年間児童の安全面で、また、学校教育活動に多大なるご支援ご協力をいただきましたことを厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

3月の取組目標

生活目標

1年間のまとめをしよう

保健目標

健康で安全な生活の反省をしよう

清掃目標

校舎の中をきれいにしよう

給食目標

楽しく会食をしよう

